

会 議 録

会議名	令和6年度第1回和泉市福祉でまちづくり委員会
開催日時	令和6年9月9日（月曜日）13時30分から15時30分
開催場所	和泉市コミュニティセンター4階中会議室
出席者	<p>(委員)</p> <p>武庫川女子大学 教授 松端 克文 大阪経済法科大学 客員教授 金谷 一郎 和泉市校区社会福祉協議会 代表 堀田 敏一 校区社会福祉協議会ボランティア 委員長 井出 典子 和泉ボランティア・市民活動センター アイ・あいロビー運営委員会 運営委員長 芦田 三雄 シルバーサポートこうきた 代表 道浦 勁 子ども食堂ポピークラブ 代表 奥野 加奈女 特別養護老人ホーム唐国園 施設長 中島 満 市民公募委員 岡崎 豊</p>
議案等	第5次和泉市地域福祉活動計画の取組について
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
事務局	<p>本委員会は、和泉市地域福祉計画及び和泉市地域福祉活動計画に基づく、地域福祉施策の推進に関する事、フォーマルサービス及びインフォーマルサービスの検討及び開発に関する事。プラットフォーム方式の活用による住民の福祉分野における課題の発見及び解決に向けての活動の企画、立案及び実践に関する事、和泉市地域福祉推進協議会、関係団体、関係機関、事業者、ボランティア等との連携及び協働に関する事、そのほか和泉市地域福祉基本・活動計画の基本方針及び基本目標に基づく地域福祉の円滑かつ効果的な推進のための関係分野における連携の強化及び検討に必要な事項の調査及び審議を行う場となっておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。それでは、次第に基づき、進めさせていただきます。</p> <p>次第1、開会あいさつを和泉市福祉部長西川加恵よりご挨拶させていただきます。</p>
事務局 (部長)	<p>皆さま改めましてこんにちは。福祉部長の西川です、本日は福祉でまちづくり委員会の開会に際しまして一言ご挨拶させていただきます。委員の皆様方に置かれましては、公私何かとお忙しい中、また残暑もまだまだ厳しい中、本委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また日頃より本市福祉行政にご支援、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。加えまして、今回委員の退任によりまして、新たに松端委員さん、井出委員さんにおかれましてはご就任いただきましたことを重ねてお礼申し上げます。ありがとうございます。本日は主に校區別アクションプランの進捗管理につ</p>

事務局	<p>きまして、和泉市社会福祉協議会からをご報告させていただく予定となっておりますので、委員皆様の忌憚のないご意見をいただければと存じます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございます。続きまして、次第の2「委員の交代について」ご報告させていただきます。本委員会の委員長として、長年にわたりご尽力いただきました桃山学院大学名誉教授の石田易司様と、校区社会福祉協議会ボランティアの栗山寿代様が委員を辞職されましたことをご報告いたします。石田様の後任として、本日お越しいただいております武庫川女子大学教授の松端克文様に、栗山様の後任として、校区社会福祉協議会ボランティア委員長の井出典子様それぞれ委員就任の承諾をいただいております。</p> <p>続きまして、次第3「委嘱状交付」でございます。先ほどご紹介させていただきました武庫川女子大学教授松端克文様と校区社会福祉協議会ボランティア井出典子様に委嘱状を交付させていただきます。交付につきましては、恐れ入りますが机上での配布とさせていただきます。委員の任期につきましては、参考資料、和泉市福祉でまちづくり委員会規則第4条第2項、補欠により選任した委員の任期は、前任者の残任期間とすると規定に基づき、本日から令和7年3月31日となりますので、よろしくお願い致します。</p> <p>(次第4 出席者紹介)</p> <p>続きまして、次第5 委員長選出でございます。規則上、委員の互選により選出となっておりますが、委員のみなさまで、どなたか推薦はございますか。</p>
芦田委員	<p>会長には、武庫川女子大学の松端教授にお願いするのはいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ただ今、会長に松端委員をご推薦いただきましたが、委員の皆さま、いかがでしょうか。</p>
委員全員	<p>(異議なしの声)</p>
事務局	<p>ありがとうございました。本委員会は議事録作成のため録音し、議事録作成後消去させていただきます。議事録要点については、和泉市公文書作成基準に基づき、委員名を記載して公開とさせていただきますので、ご了承いただきますようお願いいたします。このあとは松端委員長に議事の進行をよろしくお願いいたします。</p>
松端委員長	<p>改めまして武庫川女子大学の松端です。はじめに、傍聴の件ですが、原則公開ということですので、お認めいただければよろしいでしょうか。今日は傍聴者の方はいらっしゃらないですね。多くの方に関心を持っていただきたいので、関係者に来ていただけるような委員会の運営ができればいいですね。では、次第に沿って進めていきたいと思います。</p> <p>はじめに、次第6 番の報告事項、前回委員会の振り返りをお願いします。</p>
事務局	<p>次第6</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回委員会振り返り【資料1】 2. 第5次和泉市地域福祉基本計画の目標見直しに係る取組について【参考配布】
松端委員長	<p>ありがとうございました。前回は昨年度末に行われた最後の委員会の報告として、資料1でいくつかの話と参考資料で具体的な目標の見直しに関して説明がありましたが、</p>

	<p>この業績目標の設定、成果目標の設定をまとめた資料についていかがでしょうか。</p>
<p>金谷委員</p>	<p>すみません、資料1ですが、パブリックコメントの内容をお聞きになった部分で、委員からの意見ではないと認識しています。誤解が生じないように書いていただけるようお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご指摘の通り、こちらはパブリックコメントのご意見になります。申し訳ございません。</p>
<p>松端委員長</p>	<p>多くの意見があった点については、計画策定の過程でパブリックコメントの中で意見があったということですね。その他、参考資料より業績目標と成果目標についてはいかがでしょうか。</p>
<p>金谷委員</p>	<p>今、事務局でご説明がありました、成果指標や目標数値をもっと市民にわかりやすく、何が本当に進んでいて、何ができていないのかということを知りやすく報告いただきたいと思います。市民として、共助が進んでいる、自助が進んでいる、公助が進んでいるとか、何が進んでいて何が進んでないのかがわかるようにしてくださいねと、以前もお伝えしたと思いますので、よろしく申し上げます。</p>
<p>松端委員長</p>	<p>和泉市の場合は、何をもちって地域福祉が進んだのかどうかというのが難しいですよ。それは計画を策定しても、計画の評価が難しいので参考資料で配布されていますが、業績目標と成果目標をどう設定するか、今後一緒に考えながら議論していきましょう。</p>
<p>事務局 (副市長)</p>	<p>はい。本当は最後にいつも総括しますが、念頭にお入れいただいた方がいいかなということで、少し補足させていただきます。私からもこの目標設定の見直しについては、多岐にわたり指摘したところですが、今、金谷委員からご指摘のように今日は反映されておりません。非常に多くのご指摘をいただきましたので、後日別途この目標設定については、行政内部でしっかり議論をして、修正したものをお出しするというにしたいと思っております。これと同じような話で地域福祉の圏域とかあの単位をこれからの数年かけて見直していこうと考えていますが、これももう少し行政内部で素案に近いようなものをまとめてから、皆様方にご議論いただいた方がいいかなと思っておりますので、別途場を設けて議論し直しますのでよろしくお願ひいたします。これも議論してくれ、もう少し詰めてくださいというお話もあるかもしれませんので、本日はそれも含め忌憚のないご意見を賜りますようによろしくお願ひいたします。</p>
<p>松端委員長</p>	<p>ありがとうございます。地域福祉推進協議会でも議論があったので、それを踏まえ、まず事務局で十分精査いただいた上で、この目標設定について改めて提示をいただくということをお願いいたします。また、本日ご意見ありましたら、副市長のおっしゃるように、忌憚ないご意見を頂戴できればと思います。第5次和泉市地域福祉活動計画の取り組みについてお願いします。</p>
<p>事務局 (社協)</p>	<p>次第7. 第5次和泉市地域福祉活動計画の取組について【資料2-1~2-5】</p>
	<p>1. 和泉市地域福祉活動計画の校区別アクションプランの取組について</p>
	<p>2. 進捗管理様式の共有</p>

松端委員長	<p>ありがとうございました。この計画策定では、市・市社協の計画と21小学校区ごとにある校区社協ごとにアクションプランを策定されています。それについて今年度からスタートしますが、どのように進捗管理していくのかについて、資料2-1の方に様式に従って、資料2-2、2-3は、鶴山台南校区とそれから横山校区を例に説明をいただきました。各校区の一覧にしたものが資料2-5ということですかね。これで実際にスタートしてみて、今年度の振り返りのときに年度末で令和6年度振り返りシートで見てください。こちらについては、いかがでしょうか。</p>
堀田委員	<p>今事務局（社協）から説明があったように、令和6年度から令和10年度までの計画ですが、一つ問題点があり、先日の役員会で、例えば町会長や社協の会長、ボランティアの会長などの担い手のほとんど任期1年か2年で終わります。その場合にせっかく実践していたことが、任期が変わることでリレーできていない場合はどうすればいいんでしょうか。そのような問題が出ていますので、いかに次の方にうまくバトンタッチするのが一番大切だと思います。</p>
松端委員長	<p>校区社協で推進していくということで、先日役員会がありました。そこで話になったのは、結局役員さんも自治会長さんも地域のボランティアさんも、任期が1年で変わるので、事業をどう継続していけばいいのかということが大きなテーマになってきますね。これについて事務局（社協）の方で何かいいアイデアはありますか。</p>
事務局 （社協）	<p>今堀田委員からお話いただいたように校区によって、毎年、または2年ごとに会長が交代される校区もあります。一方で継続していただいているところもあるのが現状です。そんな中で私達も引き継ぎのお手伝いをさせていただくのですが、計画の進捗が可視化できるように、今回の計画では、先ほど説明させていただいたような計画の全体像が細かく、現状と今後の方針がわかるように、このような用紙を作成させていただきました。</p>
松端委員長	<p>計画自体は、継続的にしていきたいと思いますという措置の方法ですので、各項目で計画を作り、さらには計画書の中に埋もれているとわかりにくいので、こういう形でピックアップしたものを出して校区ごとに何を目標にして、5年の計画の進め方を丁寧に整理し、お互いが共有をして、仮に役員メンバーが変わったとしても、地域として継続して取り組んでいきたいと思いますということですね。組織にしても同じですね。例えばこの計画に基づいて推進していきたいと思います、基本のところは共有しますよね、地域もそういう形で役員さん変わっても、このうちの地区では何をするのかみたいなものが共有した上で、連携していくということですかね。そのためには先ほど説明したように、紙だけではわからないので、そこは話し合いをして、認識を共有していくことが必要ですからね。</p>
金谷委員	<p>委員長がおっしゃったことは非常に大事なことで、私は行政学やコミュニティ学が専門でして、その観点から申しますと議論をすることが大事で、計画を作ったけれども、計画が一人歩きするのもよくありませんし、単に進捗管理したらいいだろうということも違います。時代や社会経済情勢が変われば、その地域の課題が変わるのなら、計画を見直してもいいわけですよ。事務局として作ったから、引き付けてくださいということはよくわかりますが、本来は5年の間この状況が続くかわからないし何かあるかわからないので、地域の課題が変われば、目標や課題を変更し、その段階で優先事項が変わってもいいと思っています。僕はこれを住民自治と言っていますが、住民が自分たちの課題をちゃんと考えて、自分たちがどうしていくのを考えていただければいいので、行政が作ったものを絶対にお願という話ではなく、地域の課題は地域の方で考えていただいて、なぜその重点的な取り組みをしたのか、目標にしたのかという背景を</p>

	大事に、ここをいろんなところで議論いただいたらいいと考えています。
松端委員長	ありがとうございます。今、協議の場が順番に立ち上がっているということですので、今のお話しのように、認識の共有がポイントになりますね。考えたことをもとに計画を遂行していくことで、もし計画通り進まないとしたら、なぜ進まないかの分析が要りますよね。そのときに、そもそも目標設定が十分じゃなかったこともあるし、テーマはあるけど、そもそもそこに含まれてないものがあったり、社会が変化していると、継続して取り組むべきことと、臨機応変に、その時々テーマに対応していくという面があるかと思うので、1年間やっていく中で、5年間これで計画の内容を縛るというよりは、臨機応変に変えていくみたいな視点もいるという、そういうことでよろしいですか。その他いかがですか。
松田委員	今回作っていただいた第5次地域福祉基本・活動計画ですが、もっとわかりやすい概要版を作ってははどうでしょうか。検討してほしいです。
松端委員長	計画は分厚いので、概要版が必要ではないかというご意見ですが、いかがですか。
事務局	計画の概要版ですが、本来であれば計画完成と同時に出示するところでした。計画作成に時間がかかり、概要版が作成できていない状況ではありますが、この計画の見直しと同時に、完成時期は未定ですが概要版も作成したいと考えています。
松端委員	はい。住民のためには、ぜひあった方がいいですよ。いかがでしょうか。
道浦委員	素朴な疑問ですが、校区で非常に良いプランを考えてくれていると思いますが、私自身、自分の校区の社協会長は誰か分からない。誰が協議会のメンバーかも知らないで、何を目標にしているか、計画に書いてあることは1回も住民に伝わってこない。そうするとこれらを広げるのは校区の責任になるのですか。自治会の会長はなんとなく知っているけど、社協はわからない。そんな感じがしますが、どうですか。
松端委員長	校区の住民さんに共有できていますかということですが、いかがですか。
事務局 (社協)	社協の認知度がとても低い点は実情だと思います。協議の場においても、第4次(地域福祉計画)までは、限られたメンバーで限られた内容を話し合う形で進んでいました。第5次からは、検討する内容によって、参加するメンバーを広く呼びかけていきたいと考えています。各校区のアクションプランについては、去年社協から、校区でこの計画が出来ましたという旨のチラシを作らせていただき、配布いただくようにお伝えしていますが、全戸配布していただいた校区もあれば、関わった役員さんだけで共有されている校区もあり、広く認知されるには至っていない現状です。これから力を入れて地域の皆さんに、SNS媒体も工夫しながら、地域の方に見ていただいたり、多くの方にご意見いただいたりしながら進めていける仕組みを考えていきたいと思っております。また、道浦委員の校区でも、来月ぐらいに協議の場をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。
道浦委員	協議の場を開催していただいたら嬉しいですが、役員の交代や会員も変わるので、社協だけでなく、自治会なども協力して一緒に進めるといいと思います。
事務局 (社協)	人と人の活動になると、難しい部分もございますけれども、いろんな方たちにもご参加いただきながら進めていけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

<p>芦田委員</p>	<p>いろいろな役員で、1年交代という話を聞きます。そういう形で変わってくるので、横に繋がる形を作っておかないと、本当に絵に描いた餅になると思っています。私は横に並んだ組織として、例えば子ども会など、ある程度変わらずに動ける人を横に置き自治会と連携しながら進めて、自治会のメンバーが変わっても、一定のメンバーは変わらず継続課題を具体的に進めていけるような仕組みがいると思います。そうでないと、地域のことがわからないままで、年月が経つというのが、今までもそうだったと思います。</p>
<p>金谷委員</p>	<p>道浦委員や芦田委員がおっしゃったことは非常に大事なことで、私が冒頭に言ったように地域の方の課題やニーズを拾い上げるということも大事なことで、計画の30ページを見てください。今おっしゃった地域福祉基本・活動計画の活動計画自体の情報発信や計画の内容を地域の方と共有することについては、住民対象ですよ。非常に認知されてないということ自体が、この計画の中でも記されています。それからその前提で31ページの方にも、地域の活動情報の発信も大事ですよということです。特に今の議論で、小学校区別アクションプランの実現支援は、まさに芦田委員からお話があったように誰がやるのかについては、地域任せでは難しいということです。共助を支える共助として、社協さんが支援をしていきますと出されています。ここは道浦委員もおっしゃった、住民への周知も役割としてありますし、私が冒頭にお伝えした地域の課題が変われば、計画の見直しが必要な際の支援も入っています。それから、43ページには地域福祉活動のボランティアさんを増やすとありますが、道浦委員から社協だけでは難しいですよとおっしゃったことも含めて、この間この計画ですでに議論してきたので、担い手づくりという大きな項目の中で、地域に任せるのではなく、市の広報担当も含めて、今後広報・協働推進室の方で、主体的に共助を支える公助としての支援内容も書いていますし、冒頭申し上げた成果指標や業績指標を、行政資料を見ながら皆さんと議論できればと思います。目標値数は修正待ちの状況なので、突っ込んだ議論はできませんが、計画にありますので、これから具体的なことを御議論いただければいいのではないかなと思っています。</p>
<p>松端委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。その他いかがですか。</p>
<p>岡崎委員</p>	<p>協議の場が、一番重大になってくると思います。先ほども言われていましたように、自治会と社会福祉協議会を比較しても、日常で自治会の方がよく動いているということがあると思います。地に足のついた活動にしようと思えば、自治会の中に協議の場を落とし込むぐらいの動きをしないといけないと思います。ここの参考資料の見直しの中にあります、協議の場を年4回以上行っている校区が、現状は3校区から5校区で書いてあります。これが今回のこのアクションプランは全校区スタートしているので、これが続けば充実していきますし、徐々に進めるという考え方ではなくて、はじめから全校区の協議の場を充実するという活動をいかに進めるか、それをフォローしていくのが、やり方ではないかと思います。</p>
<p>金谷委員</p>	<p>この委員会の中でも自治会との関係が話題にあがりますが、まず自治会関係で言うと、計画の57ページに、圏域の項目があります。コミュニティで言うと、自治会エリアには校区社協はないので、本来は自治会単位で社協を作らないとダメですよ。なので、おっしゃっていることはよくわかります。自治会単位で圏域をどう考えるのかということは、これから和泉市としてどうしていくのかを考えることです。一般に中山間部などでは自治会役員のなり手がなく全く機能していない、都市部では自治会加入率が半数を切るなどの地域がたくさんあります。このような現状を踏まえ、圏域をすることが非常に大事で、この計画作成時に、圏域の研究をきちんと議論しないといけないということで宿題になっていますよね。あと協議の場に関しては、作るだけじゃなく、議</p>

	<p>論の中身が大切なので、進捗管理が大事ですし、今日の委員会も、計画がうまくいっているのかを議論してもらうために、年2回やることになっているので、何が課題か、うまくいっていなかったら何を支援したらいいのか、共助を支える共助、または共助を支える公助として、何が足りないのかをこの委員会で議論すべきで、非常に大事な大きな役割だと思っています。</p>
松端委員長	<p>はい。盛りだくさんの意見ではありますが、いかがでしょうか。</p>
事務局 (社協)	<p>今岡崎委員さんのお話いただいた部分で、社協としても校区社協を中心にまちづくりを進める中で、町会さんたちの協力はないといけない部分ですが、毎年役員さんが代わられることが多い状況だと思います。校区によって町会さんとの協働の力の強さは違うので、その辺でどんな呼びかけをすると町会さんとしたら社協の活動にもっと目を向けてくださるかアドバイスがあれば教えていただけると嬉しいです。</p>
岡崎委員	<p>協議の場は、今は代表者だけの会議ですね。協議の場の中身を自治会の中でお知らせすれば、少なくとも議事録が残ってみんなに伝わるという方法があるわけですね。共有したり、周知したり、継続してその辺の手法は考えて、変えていかなければ、そのギャップを埋められないのではないかと思います。</p>
事務局 (社協)	<p>ありがとうございます。今のお話を聞いていて、社協として協議の場の開催や、そのテーマをどう進めるかに力を入れていても、お知らせの方法や、提案については反省があると感じました。手法については、全校区が同じような足並みを揃えて協力体制が取れるような形を整えていくことも大事なところだと思うので、そこは地区担当でどの様な形ができるか話し合っていきます。合わせて、町会自治会の方にこの計画アクションプラン完成の報告に行けてなかったという反省がございますので、そこもまた早急に調整し、進めて参ります。</p>
井出委員	<p>私は社協ボランティアを約15年、自治会の役を3年目やっています。私の校区でも、自治会長さんは毎年変わる形になっています。自治会の会費の中から社会福祉協議会に納め、その一部が私達の活動費に返ってきますが、自治会長さんからお金いただくので、その方たちに、お金の使い道を分かっていたくために、毎月自治会長の方に参加いただき協議の場を開いています。私の町は15年以上前から町のサミットという形で、民生委員の代表、社協のボランティアの代表、シニア代表、子ども会代表でいろんな見守り隊の代表の14人ぐらいで、3ヶ月に1回サミットを開いています。そこで各々の活動を共有しています。はじめ自治会主催で開催していましたが、今は自治会からは部屋の提供とコピー用紙の提供で、あとは自主的に進めています。</p>
岡崎委員	<p>それは校区自治会と校区社協の関係のもとなのか、自治会の中に、自治会と社協のボランティアが入っているかということですか。</p>
井出委員	<p>自治会の中で、自治会の中に子ども見守り隊があり、シニアは市の老人クラブ連合会、子ども会は子ども会連合会で入っていて、民生は民生委員が入っています。自治会と全然関係ない方で地域活動している人10人あまりが3ヶ月に1回集まっています。</p>
岡崎委員	<p>それは、自治会の中に自主的な活動ができているということですよ。自治会活動と社協の活動が一つになっているのでいいですね。</p>
芦田委員	<p>自治会の役員は、役員としての仕事があるので、それ以外の役割が入ってくるしんどくなります。興味関心のある人が、無理のない、楽しい中でやっていけるグループをた</p>

	<p>くさん作ることができれば、最終的には大きな意味での福祉の幸せなまち作りになるのではと考えています。校区社協の中でも、部会制で色々な人に入ってもらって、3ヶ月に1回ぐらいの協議の場へその代表者に来ていただき、部会で話し合ったことを共有する場をつくるのはどうかと議論し始めているところです。自分たちだけではできませんので、やり方などアドバイスいただける方を交えて、実現する方法を考えていくことができれば、アクションプランも進められると思います。</p>
<p>松端委員長</p>	<p>確認したいのが、協議の場イコール校区社協ではなく、協議の場にはいろんな方が入ってくるということです。</p> <p>現在の地域の状況によりますが、まず一般には一番小さい自治会町内会がありますよね。それよりももっと小さく班とか隣近所の関係があって、一応組織としては、自治会町内会があって、連自治会・連町会みたいな圏域がありますよね。これがおおむね小学校区にありますよね。これ一致していますよね。地区社協も小学校区やから、実際既存の団体にある面に頼ってしまう面があって、だけど自治会加入率が減ってくるし、子ども会とかPTAとかも何もなかったりするから、今まで活発に動いた団体がなくなってきていて、空洞化している場合がありますよね。</p> <p>今回の計画は校区社協で作りましたが、住民さんに降りていませんという話から始まったと思います。やはり周知をどうしていくかも必要ですし、既存の団体に縛られずに、もっと個人単位で関わられるような仕組みが必要ですね。</p>
<p>事務局 (社協)</p>	<p>今実際にその協議の場で活動を進める中で、既存の団体だけではできない部分もあるので、ある校区では自治会の方にご協力いただき、こどもに関する居場所のアンケートをして、集いの場ができれば参加したい方と、運営の応援したい方を同時に呼びかけました。応援したい方たちを今月末に集めたら、校区社協の今までの活動者の方と全く別の方たちでした。皆さんのやりたいことを聞きながら社協として応援させていただく形で進めていこうと考えています。そこに校区社協の方にも入っていただく形で進めることができたかと思っていて、新しい担い手、若い方たちの思いもしっかりキャッチして進めることができるように、少しずつですが、できるところから進めています。そういう形で、他の校区でも、アクションプランを進める中で、もっと違う団体や、新しい人たちにも関わってほしいということで、広く呼びかけて、住民の皆さんに呼びかけることも、同じく進めていけたらと思っております。</p>
<p>松端委員長</p>	<p>新しくやっついこうとしていることが分かりました。</p>
<p>事務局 (社協)</p>	<p>現状、協議の場には、生活支援コーディネーターやCSW、包括の方にも協議の場に入っていただき、それぞれの方たちの視点でのアドバイスをいただき、専門職の方のご協力をいただいているような形で進めています。</p>
<p>松端委員長</p>	<p>協議の場、もっといい表現はありませんか。</p>
<p>事務局 (社協)</p>	<p>私達も協議名を変えたいと思っています。親しみやすく、誰でも参加できるような協議名を募集してもいいのかなと思いました。</p>
<p>松端委員長</p>	<p>厚労省や総務省からは地域への過剰な期待が寄せられて、協議の場とか協議会がたくさん出てきています。結局、何か一つのところにも何もかもをのっけて、地域を人からしたら、同じような人が担うようになってしまうので、その辺りの整理も必要だと思います。そういう意味では、僕はリセットする意味で、協議の場をもう少しいい表現にするのはどうでしょうか。サミットも面白いと思います。井出さんの地域はそうしているように見えます。</p>

井出委員	<p>長年させていただいています。去年ぐらいから地域連絡協議会が。</p>
松端委員長	<p>既存のままで動かないから、いろんな人をどう招き入れるかですよね。そのために今ある団体をいかに活性化するか一つの課題ですね。例えば先程お話ありました、民生委員さんなり手が減ってきているし、町会などの各役員も基本減ってきていて、大変なことはしたくないという方が多い。それが悪いわけではありませんが、そういう意味では自分の生活がある一方で、それでも地域のためと思う人をどんどん増やしていなくてはなりませんね。自治会などに入って活動するというルートはありますが、それとは別で、より個人の関心事に関わる話し合いの場や協議の場に繋げていくというイメージでしょうか。計画の37ページに、協議の場を年に4回以上、開催する校区を増やしていくとありますが、いかがですか。</p>
事務局 (社協)	<p>協議の場自体は21校区全てで立ち上がってはいます。ただ、前回の推進協議会でも修正する形でお伝えさせていただきましたが、重点目標を進めるための話し合いの場を年4回以上となっているところを、もっと小さい単位での具体的な話し合いをした回数でカウントさせていただきたいと考えています。</p>
芦田委員	<p>私は基本的に楽しく集える場ができたらいいと思うので、やはり趣味のことができるような会がたくさんあればいいですね。楽しもう会がたくさんできていくようなイメージですね。</p>
松端委員長	<p>協議の場という名前は、何だか壁ができますね。もっとざっくりした、皆さんに関心を持ってもらって参加してもらおうような感じがいいですね。関心のある人が、少しずつでも関わってくれて、活動が広がっていくような仕掛けをしていきたいです。たくさん意見がありましたが、奥野さんいかがでしょうか。</p>
奥野委員	<p>子ども食堂をしています。それぞれの校区で、いろんな顔があると感じているので、これをこうしようと思わないようにしています。うちは子ども食堂で、1回でも楽しく来られる居場所を作りたいと思い、トマトちゃん基金で補助金をいただいて活動しています。ボランティアもだんだんと年齢の高い人から低い人へ変わってきました。堺東のこども食堂交流会に参加した際、ある地域で、ジュニアボランティアを作っていることを知り、うちの地域でも中学から高校までやってもらえたらなと思い、呼びかけていこうと考えています。担い手になっていくし、防災にも役立つと思います。今後は高齢の方も来られるようなこともしたいし、いっぱい希望はありますが、既存の団体では無理がでてきていて地域の違いを感じます。うちの子ども食堂に100人ぐらい来てくれて、楽しんで毎月来てくれるので、ボランティアの人も明るくなって、元気になっておっしゃってくれています。またいろいろ参考にさせてください。</p>
松端委員長	<p>やはり、ニーズはいっぱいありますよね。</p>
奥野委員	<p>貧困だから来るのではなく、来るのが楽しみになる感じですね。</p>
松端委員長	<p>和泉市民でなくても、ここに関わっている人であればいいですね。桃山学院大学の学生や、和泉市に住んでいる市外の大学に行く学生さん、そういう人たちをうまく招き入れ、いろいろ仕掛けていくと結構活動したい人はいます。うちの学生でもコロナですと活動できなかった反動か、結構活発に活動する人がいます。その人たちをうまく招き入れて、そこから口コミで人を広げていくと結構な数があるはずですよね。特に子ども関係はもうみんな来たがります。若い人がいたらみんなが元気になりますから。交流</p>

できる場を作らなければ、地域で自然に交流できる場がなかなかありませんので、意図的に作らないといけません。この辺りで区切りをつけさせていただきます。今日はまとめるのが難しいと思いますが最後に副市長より、総括をいただきましょう。お願いします。

事務局
(副市長)

委員長のご指名でございますので、最後に今日の総括を兼ねて御礼のご挨拶をさせていただきます。いくつかお話をさせていただきますが、まず最後の方にあった議論を整えていただきたいと思いますが、「圏域」・「協議の場」・「地域コミュニティの作り方」の議論については、これは一体であるということがご理解いただけたのではないかなと思います。それを念頭に、いくつかお話を聞いていただければと思います。まず本日は議論になかった校区社協の活動に対する評価の問題ですが、これは前回推進協議会にて申し上げましたが、主観の評価ではなく、目標設定やその達成度についても、客観的でなければいけないと念を押して申し上げておきます。

次に、概要版ですが、概要版を作るということでもよろしいですね。(事務局：はい。)

次に地域活動とは何かというお話で、これ先日もお話いたしました。この地域福祉活動計画は、校区社協の活動が中心で、最後に1章を設けてと、まるで別冊であるかのように校区社協の活動のページが出てきますが、本来地域活動とは地縁組織の活動プラス、テーマ型というふうにも呼ぶときもありますが、ボランティア や NPO による地域活動というものがあり、二つの柱になっているのかなと思います。ただ和泉市においては、現状後述の方が組織的に整理されていないので、どうしても地縁中心の見方になってしまうのが現状です。今ある NPO やボランティア団体をどう整理していくか、今庁内にウェルビーイング推進会議を立ち上げて、その中で、新たに地域活動団体を作っていくにはどうしたらいいか議論を進めているところです。この会議では今の和泉市の窓口体制も大きく変える必要性を感じています。皆様方おっしゃっていただいたように、既存の体制の中で今後も進めていくとは考えておりません。ですから今後の議論も、そこを念頭に皆様方にもご参画いただきたいと思います。

次に今日とても勉強になりましたのは、校区の活動テーマについて、皆様おっしゃっていただいたように、計画も大事が、計画を引き継ぐのではなく、計画とともにいろんな議論、ベースになるいろんな考え方について、引き継いでいくことが大切だと学びました。役員が短年で変わることは、急に改まることはないと思うので議論の積み重ねを引き継いでいくことが大事かなと思います。芦田委員の校区は、校区ニュースを毎月作っていただいて、それには細かく色々な議論の積み重ねが分かるようになっていて、地域でストックされている、そういう文化が必要だと思います。そしてあともう二つ、各校区社協の具体的な顔が見えないというご意見がありました。校区社協だけでなく地域活動をしている人の顔が見えない話がありまして、きっとこの校区の活動についても、誰がどう進めていくかまで決まらなると皆さんおっしゃられるように、絵に書いた餅になってしまうと思います。そこで私達市行政としての役割が出てきますが、今までは地域でやる活動、共助の活動ということで、地域で考えてくださいという一点張りのようなところがありましたが、市長より、これから和泉市においては共助を支える公助をしっかりとやっていけるようになっていっていますので、今言いましたように、最初に圏域の話をしました。校区社協あるいは協議の場、地域コミュニティはどうあるべきか、それは最終的には地域で自立的に決めていただくということになりますが、共助を支える公助としての役割はしっかりと果たしていきたいというふうに思っております。

最後に、圏域の話に戻りますが、再三ご指摘のあったように計画には圏域の議論を5年間かけてやるということになっています。私はスピード感について疑問も残りますが、これから5年かけてこの圏域と地域コミュニティの話をしていきます。つまり、次の地域福祉基本・活動計画を作るときまでには、この話を決着させるというスケジュール感で計画をしています。それまでの5年間は主に今ある、校区を中心とした地域活動を進め

ながら、そこに町会も関わってくるし、もちろん中学校区とかもいろいろと関わってくると思いますが、活動を実際にやりながら、いろんな問題点が出てくるので、5年がかりでこの話を議論していきましようということになります。市社協のメンバー、私たち市行政も頑張っていきたいと思っています。

最後に、岡崎委員がおっしゃったことで一つ言い忘れたことがあります、協議の場作りとか再生の活性化についての議論は聖域なくやっていきたいと思いますが、計画の37ページのところに、スケジュールが書いてありまして年単位で徐々に全体を徐々に温度を上げていくっていうのは一つのやり方で、これまでの行政というのはどちらかというところのこのようなやり方をやってきました。しかし、それで進めても成果が上がってないというのが私の認識で、これから和泉市が目指すのは、できるところから先進的な取り組みをやっていきましようという考えですが、今までの行政のやり方とは、大きく変えていきたいと思っていますので、この件についても推進協議会やまちづくり委員会で、どのやり方が和泉市にあるかってをご議論いただきたいと思っています。皆様のご協力をお願い申し上げまして、私からの御礼のご挨拶をさせていただきます。誠にありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。次回は令和7年1月に開催を予定しております。詳細が決まりましたらご連絡させていただきます。以上をもちまして、令和6年度第1回和泉市福祉でまちづくり委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

以上